SAKAImed

シルフィード（SYB-100）用

担　架

取扱説明書

スライド式枕タイプ

SWS-100

バスクッションピロータイプ

SWS-105

●このたびは、お買い上げいただき、まことにありがとうございます。
正しく安全にお使いいただくため、ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みください。

●「取扱説明書」は
・１部を現場用として、常に参照できる状態を保ってください。
・１部を保存用として、大切に保管してください。

01-241①S6

用　途

本製品は、弊社浴槽『シルフィード』(SYB-100)専用の担架です。
ストレッチャーまたは洗浄台と組み合わせて使用します。

特　長

●頭側と足側のサイドフェンス

入浴者の身体が担架から出ることを防ぎ、側臥位での作業の際にも安心です。

●入浴者の方が安心して入浴できる、安全配慮設計

・サイドフェンス（足側）は２重のロック機構。
・担架スライド防止装置。

●入浴者の身体に合った快適な入浴姿勢

・背当てと腰部に分かれて折れ曲がるリクライニング機構により入浴者の身体に合うようになったことで、背当てを起こしたときの窮屈さを軽減。
・浴槽のチルト機構に連動したリクライニングと膝部の屈曲。
・枕の上下位置調節※

●　快適な寝心地

背中部分のマットを厚くし、快適な寝心地を提供します。

※スライド式枕タイプ（SWS-100）のみ

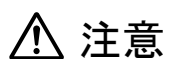
ご使用になる前に

安全上のご注意

本製品を安全に正しくご使用していただくために、各注意事項をよくお読みのうえ、必ずお守りください。

表示について

危険や損害の程度を以下に区分し、表示しています。

⚠ 危険	取り扱いを誤ると、**「死亡または重傷を負うことに至る」**ことを示しています。
⚠ 警告	取り扱いを誤ると、**「死亡または重傷を負う可能性が想定される」**ことを示しています。
⚠ 注意	取り扱いを誤ると、**「傷害または物的損害の発生が想定される」**ことを示しています。

絵表示の意味

禁止	行為を禁止することを示した表示です。
強制	必ず実行していただくことを示した表示です。

その他の表示

お願い	製品を使用する上で留意していただくことを示した表示です。
参考	参考にしていただくことを示した表示です。

ベルト・マット

⚠警告

担架に入浴者を乗せたら、３本の安全ベルトを着用する

- 着用していないと入浴者が動いて担架からの落下や、足がはみ出して挟み込む恐れがあります。
- 入浴中は浮力により身体が不安定になることで水没する恐れがあります。
- 体位変換や洗身で一時的に外した場合は、安全ベルトを再び着用してください。

安全ベルトは入浴者の体格に合わせ、適切な長さに調節する

- ベルトの長さが適切でないと、身体がずれて落下する恐れがあります。
- 身体がずれた際、ベルトやバックルと皮膚がこすれてけがをする恐れがあります。

安全ベルトを外したときには、入浴者のそばから絶対に離れない

入浴者が落下する恐れがありますので、常に対応ができるようにしてください。

⚠注意

安全ベルトの損傷に注意

ほころび始めたり、切れかかったりしてきたら、新しいベルトと交換してください。安全ベルトの身体固定力が低下すると、思わぬ事故の原因となります。

マットの損傷に注意

- 古くなって破れたり、マット裏面のマットピンが取れたりしたら、新しいものと交換してください。
- マットを取り外す際は、マットピンに手を添えて１つずつゆっくりと外してください。
- 高温の湯で洗うと変形する恐れがあります。弊社推奨の清掃方法（P.25）で清掃してください。

入浴作業前に全てのマットピンを確実に取り付けること

完全に取り付いていないと、入浴中にマットが外れる恐れがあります。

マットは、日陰に干して乾燥させる

直射日光で乾燥させると劣化が早まります。

入浴剤・保湿剤

⚠注意

ミネラルオイル（流動パラフィン）が含まれた製品を使用しない

マットや枕に付着すると、しわが発生します。

サイドフェンス、手すり※

⚠警告

サイドフェンスはトランスファーボードとして使用しない

サイドフェンスとマットの間にすき間があるため、けがをする恐れがあります。

入浴者を担架に移乗させたら、全てのサイドフェンスを起こして固定する

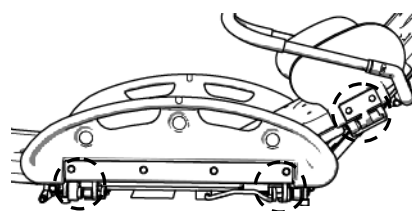
サイドフェンスの固定を確認してください。不十分だと、入浴者が落下する恐れがあります。

⚠注意

サイドフェンスを操作するときは挟み込みに注意

- 入浴者の身体の状態を確認してください。サイドフェンスを操作するときに、入浴者の皮膚がサイドフェンスのヒンジ（図 部）に挟まり、けがをする恐れがあります。
- 手足の指先がサイドフェンスと担架面の隙間に入っている状態で、操作をすると、指が挟まり、けがをする恐れがあります。

入浴者を担架に乗せたら、グリップを握らせ肘を内側に入れる※

グリップを握っていないと、上肢が担架の外側に出て、けがをする恐れがあります。握れない場合は、上肢を保持するベルトなどを使用し、上肢が担架の外側に出ないようにしてください。

※手すり（オプション）を設置している場合

背当て・膝部

⚠警告

背当てはゆっくりと倒し、最後まで手を離さない

勢いよく倒したり、途中で手を離したりすると入浴者が頭を強打し危険です。また手足を挟むなどけがをする恐れがあります。機器を破損する恐れもあります。

背当てを操作するときは、入浴者の状態に注意

サイドフェンスやフレームとの間に入浴者の手などが挟まれ、けがをする恐れがあります。

背当てを上げたら、ロックされていることを確認

しっかりとロックされていることを確認してください。

⚠注意

浴槽チルト上昇時に膝部が戻るときは、手指の挟み込みに注意

サイドフェンスやフレームとの間に介助者の手や指が挟まれ、けがをする恐れがあります。

枕

⚠注意

入浴時は常に枕を装着する（SWS-100）

枕ノブの鎖が機器に絡む恐れがあります。

バスクッションピローを洗浄する際は、ナイロンたわしやブラシなどでこすらない（SWS-105）

バスクッションピローは直射日光を避けて保管する（SWS-105）

担架上の作業

⚠警告

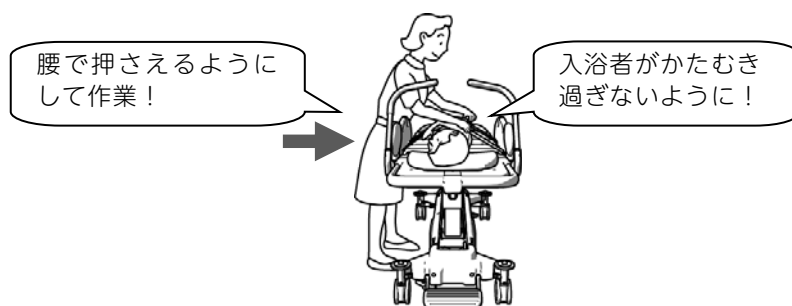
担架上で入浴者の姿勢を変えるときは、手足の指の状態に注意

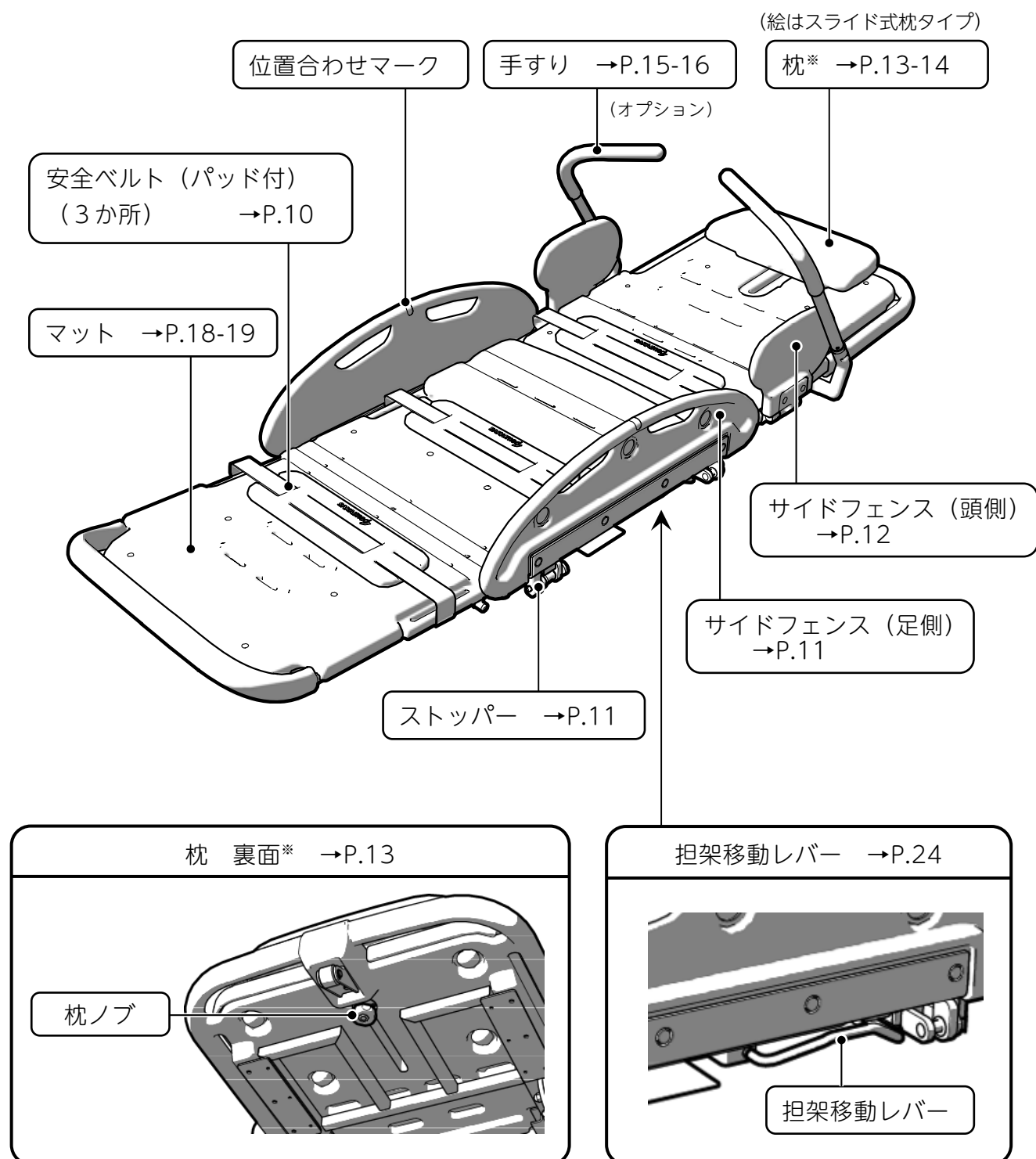
手足が拘縮や麻痺で変形している人は、担架面とサイドフェンスの間に指が入ってしまう可能性があります。隙間に入ったまま姿勢を変えると、けがをする恐れがあります。

担架上での移乗・洗髪・洗身作業時は、入浴者の落下に注意

- 担架上での体位変換作業は、作業の反対側のサイドフェンスを起こしたまま行ってください。
- 安全ベルトを外したときには、入浴者から離れないでください。

洗身作業などで入浴者を側臥位にする場合は、担架やサイドフェンスを腰で押さえる

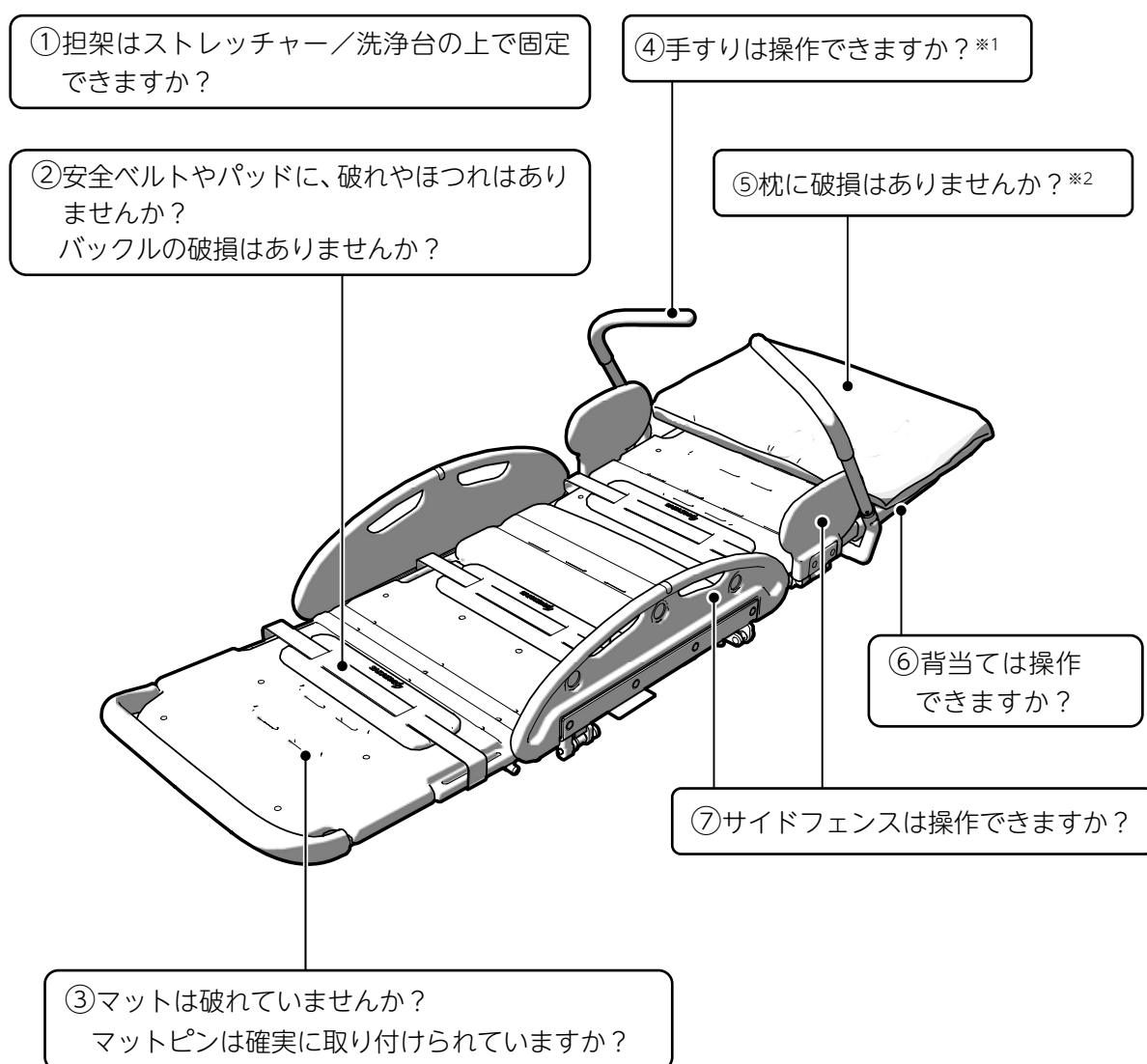
ストレッチャーの転倒を予防します。

ご使用になる前に

各部の名称

※スライド式枕のみ

ご使用になる前に

始業点検について

ご使用前に下記の始業点検項目に基づき、始業点検を実施してください。

（絵はバスクッションピロータイプ）

※1 手すり（オプション）を設置している場合

※2 バスクッションピロータイプの場合

点検の際は、本ページをコピーしてご使用ください。

始業点検項目：シルフィード用担架（SWS-100／105）　　点検日　　年　　月　　日

項目	点検内容	点検方法	チェック	備考
①	ストレッチャー／洗浄台上での担架の固定の確認	1. 担架を載せたストレッチャー／洗浄台を浴槽へ連結 2. 担架移動レバーを引いたまま担架を20 ㎝程度移動 3. レバーから手を離した状態で担架を元の位置に移動して固定 4. 担架を前後に押し引きして固定が外れないか確認	□ OK・□ NG	
②	安全ベルトのほつれ パッドの破れ バックルの破損	目視	□ OK・□ NG	
③	マットの破れ マットピンの取り付け	目視	□ OK・□ NG	
④[※1]	手すりの操作	手すりを上げ下げできることを確認	□ OK・□ NG	(P.15-16 参照)
⑤[※2]	枕の破損	目視	□ OK・□ NG	
⑥	背当ての操作	1. 背当てを持ち上げてロックさせ、上から少し力を加えてロックが外れないか確認 2. 背当てを最後まで持ち上げてロックを解除し、背当てが倒せることを確認	□ OK・□ NG	(P.17 参照)
⑦	サイドフェンス（足側）の操作	1. ストッパーを解除し、サイドフェンスを倒す 2. サイドフェンスを起こし、固定されることを確認	□ OK・□ NG	
	サイドフェンス（頭側）の操作	（手すり[※1]を跳ね上げておく） 1. サイドフェンスを倒す 2. サイドフェンスを起こし、固定されることを確認	□ OK・□ NG	(P.11-12 参照)

※1　手すり（オプション）を設置している場合
※2　バスクッションピロータイプの場合

これ以外でも部品が破損しているなど、日頃お使いになっていたときとは違う異常を感じましたら、本製品を使用せずに、最寄りの営業所までご連絡ください。
故障した場合は故障した機器を誤って使用しないように、周囲の方が分かるよう表示（故障中の貼り紙等）してください。

ご使用になる前に

組み合わせ

本製品は、弊社浴槽『シルフィード』専用の担架で、専用のストレッチャーまたは洗浄台に載せて移動します。

担架の種類

担架（スライド式枕タイプ）　・・・SWS-100
担架（バスクッションピロータイプ）　・・・SWS-105

手すり（オプション）　・・・SWS-10

必ず専用の浴槽・ストレッチャー・洗浄台と組み合わせてご使用ください。

周辺装置(別売り)

浴槽（シルフィード）　・・・SYB-100
ストレッチャー　・・・SST-100
高さ調節式ストレッチャー　・・・SST-110
洗浄台　・・・SNW-100
着衣ベッド　・・・STY-100

操作方法については、各々の取扱説明書をご覧ください。

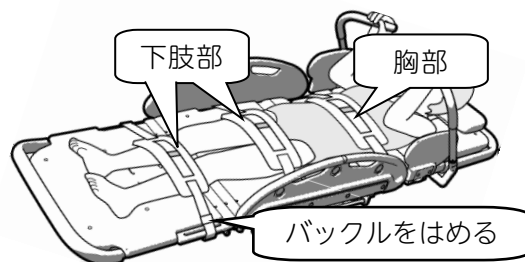
ストレッチャー／洗浄台⇔浴槽間の担架の移動に関する事項は、浴槽の取扱説明書「入出浴作業」をご覧ください。

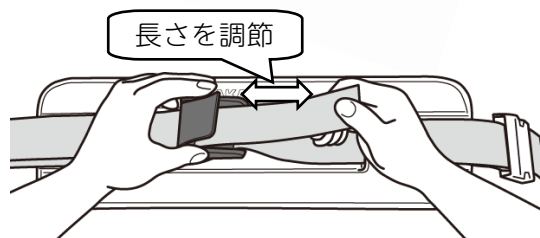
操作方法

安全ベルト

着用

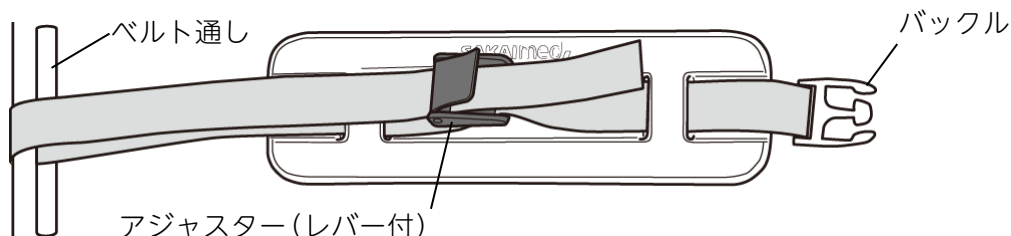
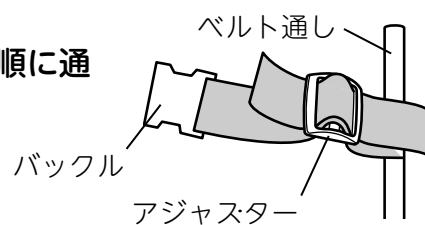
1 **担架へ入浴者を移乗させたら、安全ベルトのバックルをはめます。**

胸部（１か所）と下肢部（２か所）のベルトを着用してください。

2 **アジャスターのレバーを上げ、長さを入浴者に合わせて調節します。**

調節したらレバーを押し込み、ベルトを固定してください。調節した端が長く余る場合は、バックル側のアジャスターに通してください。

⚠警告	・担架に入浴者を乗せたら、３本の安全ベルトを着用する ・安全ベルトは、入浴者の体格に合せて長さを調節する ・安全ベルトを外したときには、入浴者のそばから絶対に離れない

⚠注意	・安全ベルトの損傷に注意（ベルト、パッド）

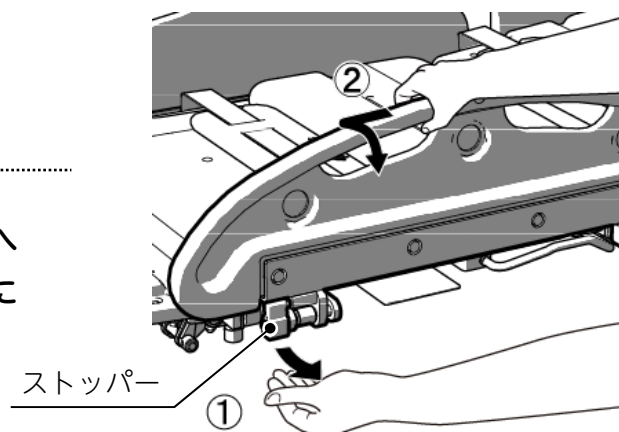
取り付け

1 **ベルト（長）は、パッド、中間にアジャスター（レバー付）の順に通し、ベルト通しに通して、再びアジャスターに通して留めます。**

2 **ベルト（短）は、片側をアジャスター、ベルト通しの順に通して、再びアジャスターに通して留めます。**

操作方法

サイドフェンス（足側）

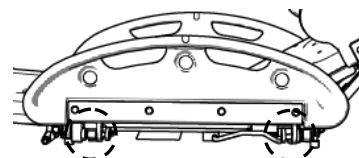
倒す

1 ストッパーの下側を手前に引きます。

2 引いたまま、反対の手で入浴者の足側へサイドフェンスをスライドさせ、手前に倒します。

起こす

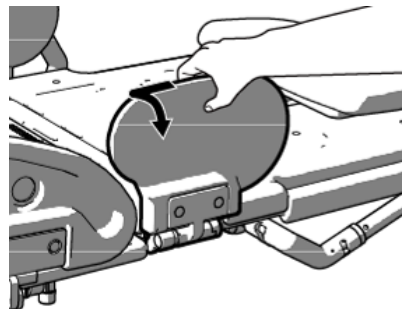
1 起こして固定させます。

> ⚠**警告**　・担架に入浴者を乗せたら、サイドフェンスを起こして、固定する
> ・サイドフェンスを倒してトランスファーボードとして使用しない

> ⚠**注意**　**サイドフェンスを操作するときは挟み込みに注意**
>
> ・入浴者の身体の状態を確認してください。サイドフェンスを操作するときに、入浴者の皮膚がサイドフェンスのヒンジ(図 ◌ 部)に挟まり、けがをする恐れがあります。
>
>
>
> ・手足の指先がサイドフェンスと担架面の隙間に入っている状態で、操作をすると、指が挟まり、けがをする恐れがあります。

操作方法

サイドフェンス（頭側）

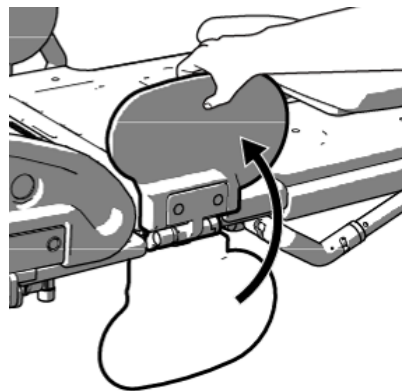
倒す

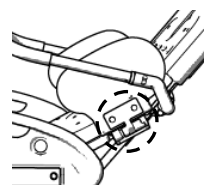
1 サイドフェンス（頭側）を入浴者の足側へスライドさせます。

2 手前に倒します。

参考
オプションの手すりが付いている場合、先に手すりを跳ね上げてから、サイドフェンスを倒してください。

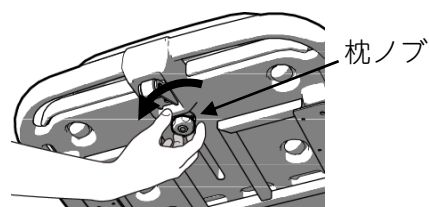
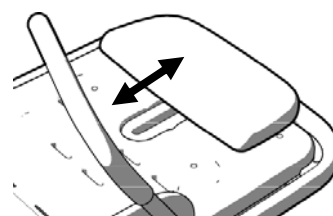
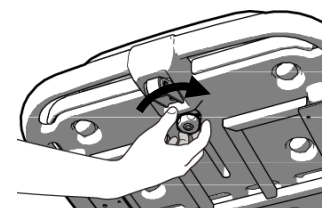
起こす

1 起こして固定させます。

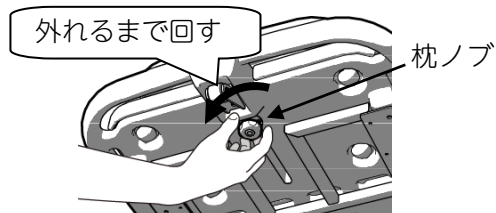
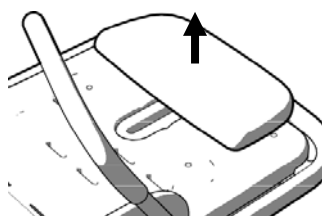
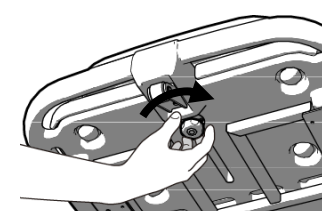
参考
オプションの手すりが付いている場合、サイドフェンス（頭側）を起こした後に手すりを下ろしてください。順番を間違えると正しく固定できません。

⚠警告　入浴者を担架に乗せたら、サイドフェンスを起こして固定する

⚠注意　サイドフェンスを操作するときは、挟み込みに注意
入浴者の身体の状態を確認してください。サイドフェンスを操作するときに、入浴者の皮膚がサイドフェンスのヒンジ（図 ◌ 部）に挟まり、けがをする恐れがあります。

枕　：スライド式枕タイプ（SWS-100）

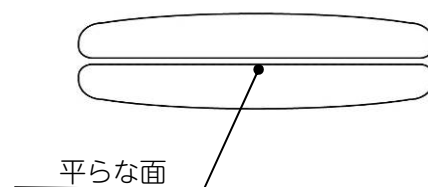
位置調節

1 背当て裏側の、枕ノブをゆるめます。

2 入浴者の頭の位置に合わせて、枕の位置を調節します。

3 位置を決めたら枕ノブをしめ、枕を固定します。

着脱

1 ノブが外れるまで回します。

・枕ノブの取り付け穴は、外れ防止加工（２段ネジ加工）が施されています。

2 枕を取り外します。

3 洗浄後は､枕を背当てに乗せ、枕ノブをしめ固定します。

⚠**注意**　**入浴時は常に枕を装着する**
枕ノブの鎖が機器に絡む恐れあります。

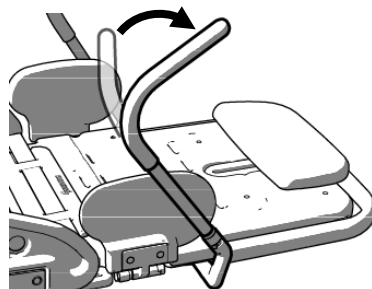
枕：バスクッションピロータイプ（SWS-105）

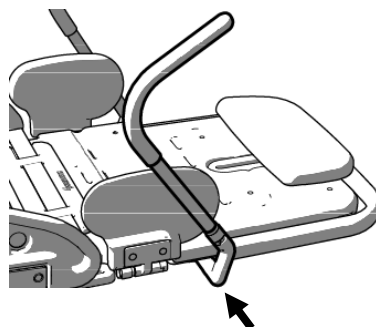
クッションの平らな面を背中合わせにしてカバーに入れ、カバーの口を内側に折り込みます。

操作方法

手すり（オプション）

跳ね上げ

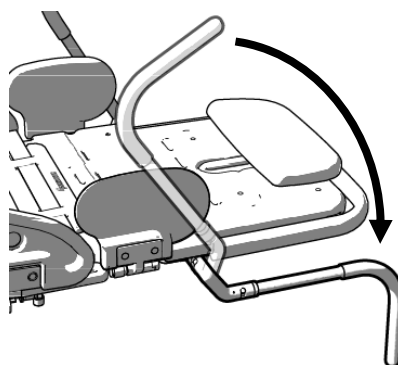
1 グリップを外側に回転させ立てます。

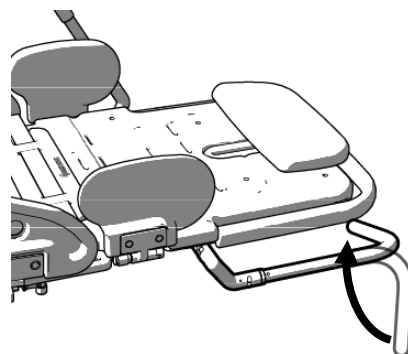
---

2 手すりのつけ根部を内側へ押しロックを解除します。

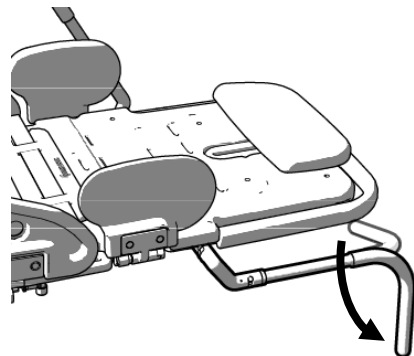
---

3 押し込んだまま、グリップを枕側に跳ね上げます。

・グリップは立てた状態のまま跳ね上げます。

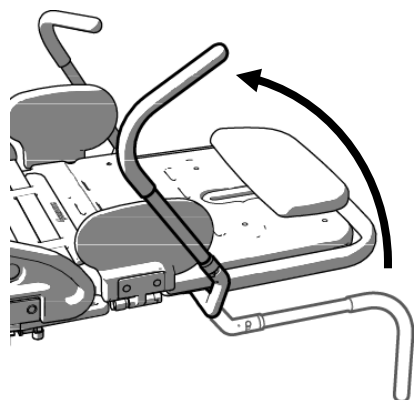
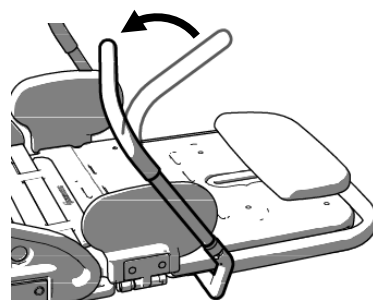
> ⚠**注意**　**グリップを立てずに手すりを跳ね上げると、入浴者の顔や頭に当たる恐れあり**

---

4 グリップを内側に回転させます。

> ⚠**注意**　**入浴前に必ず手すりを下ろす**
>
> 手すりを跳ね上げたままでは浴槽に当たり、破損の恐れがあるため入浴できません。必ず下ろしてから浴槽へスライドしてください。

下ろす

1 グリップを外側に回転させ立てます。

2 グリップを立てたまま、手すりを下ろします。

・手すりは下ろすと自動的にロックされます。

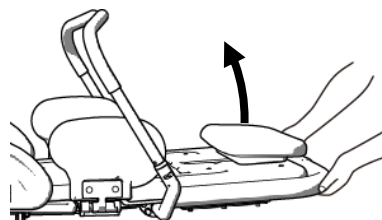
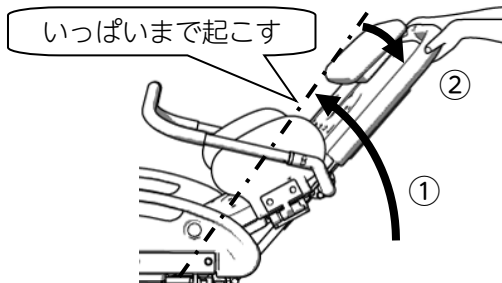
⚠注意　グリップを立てずに手すりを下ろすと、入浴者の顔や頭に当たる恐れあり

3 グリップを内側に回転させ、元の位置に戻します。

⚠警告　担架に乗せたら、必ずグリップを握らせる

⚠注意　手すりを操作するときは、入浴者の状態に注意

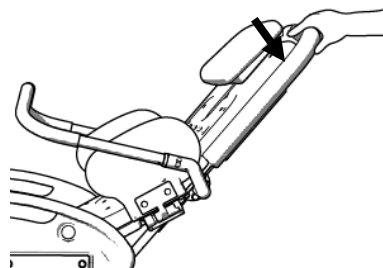
操作方法

リクライニング

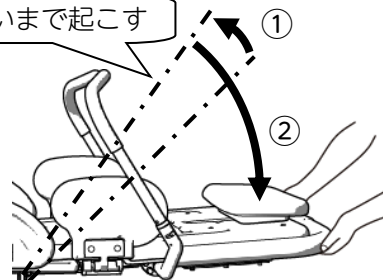
起こす

1 背当てを持って起こします。

2 いっぱいに起こした後に少し戻すとロックされます。

3 背当てに上から少し重さをかけて、確実にロックされているか確認します。

⚠**警告**　**背当てがロックされていることを確認**

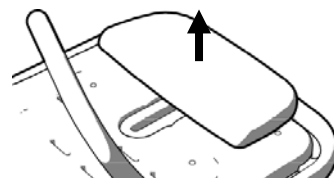
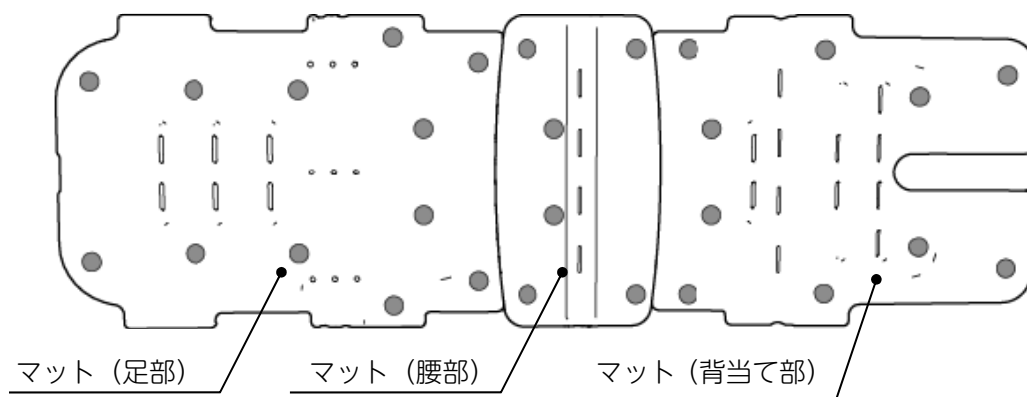
⚠**注意**　**背当てを操作するときは、入浴者の状態に注意**

倒す

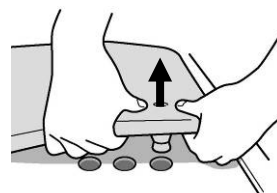
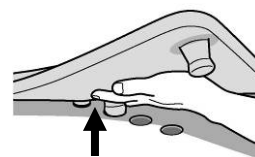
1 背当てを持って、一度いっぱいまで起こしてから、そのままゆっくり下ろします。

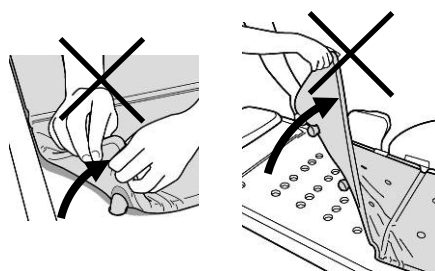
⚠**警告**　**背当てを下ろすときは、ゆっくりと操作し最後まで手を離さない**

・背当ての角度は起こした状態で約 50 度、倒した状態で 9 度です。

操作方法

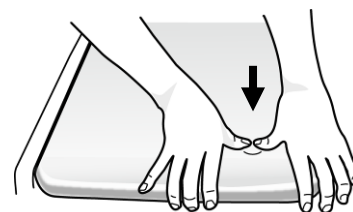
マットの着脱

マットの着脱は、枕を取り外してください。（P.13 参照）

図●印の部分の裏側にマットピンがあります。

外す

1 **マットピンの両側を両手で持つようにして、マット取付穴から一つずつゆっくり抜きます。**

2 **中央付近のマットピンは、ピンの両側に指を添え、手の平を上に上げて、一つずつゆっくり抜きます。**

⚠**注意**　**マットの損傷に注意**

無理な力で外すと、マットが損傷します。
マットを取り外す際は、ピンに手を添えて１つずつゆっくりと外してください。

着ける

1 マットを担架カバーに乗せて、マット取付穴とマットピンを合わせます。

2 マットの表面からマットピンを押して、穴にしっかり差し込みます。

参考

・マットは、足部と背当て部を先に着けてから腰部を着けてください。
・マットピンが入りにくい場合、マットピンまたはマット取付穴を水で濡らすと入りやすくなります。

⚠**注意** **・マットの損傷に注意する**
・入浴作業前に全てのマットピンを確実に取り付けること

操作方法

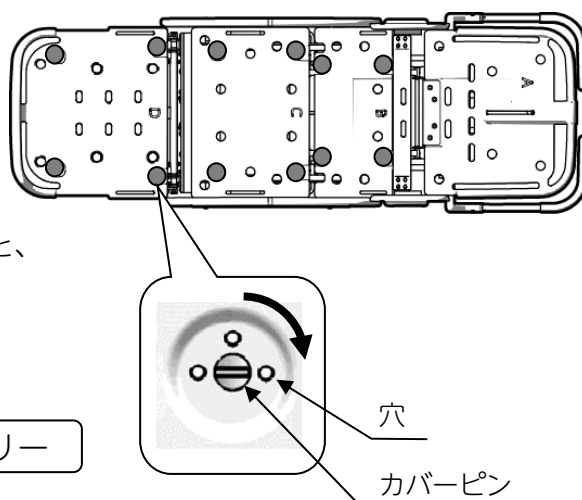
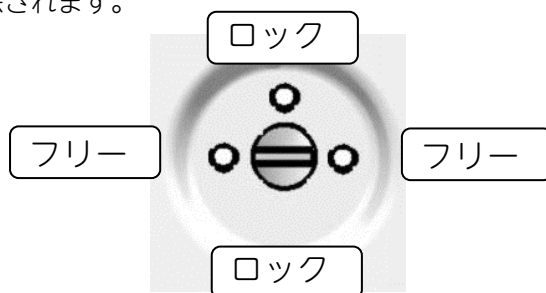
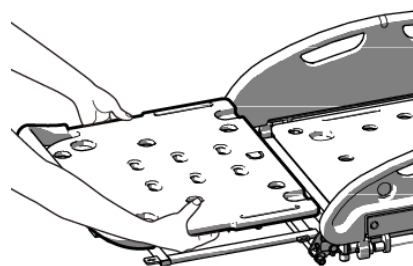
担架カバーの着脱

外す

1 **マットを外します。**

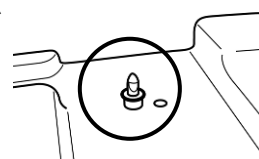
（P.18　マットの着脱を参照）

2 **各担架カバーのカバーピン（右図●印の部分、計 12 か所）の溝の向きを穴の位置に合わせます。**

下図のように、両端に穴が来る方向へ溝を合わせると、ロックが解除されます。

3 **担架カバーを上へ持ち上げて取り外します。**

参考

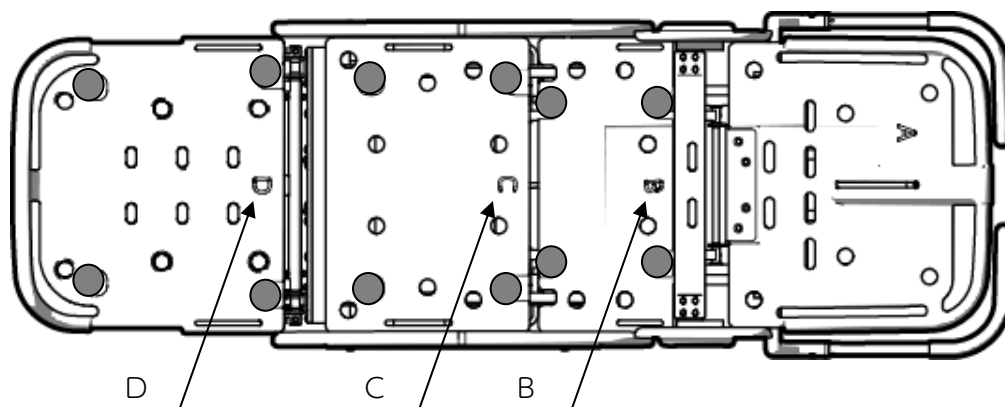
・コインをカバーピンの溝に入れて、回すこともできます。
・背当て部の担架カバーは外せません。

⚠注意　**担架カバー裏面の清掃時は、カバーピンの先端に注意**

カバーピンの先端が突出しています。
先端に注意しながら清掃してください。

操作方法

着ける

1 担架カバーを担架フレームに乗せてカバーピンと取付穴を合わせます。

担架カバーにある英字（B、C、D）が背当て側になるように乗せてください。

2 カバーピンの溝の向きをロック側（穴が片側）に回して担架カバーを固定します。

操作方法

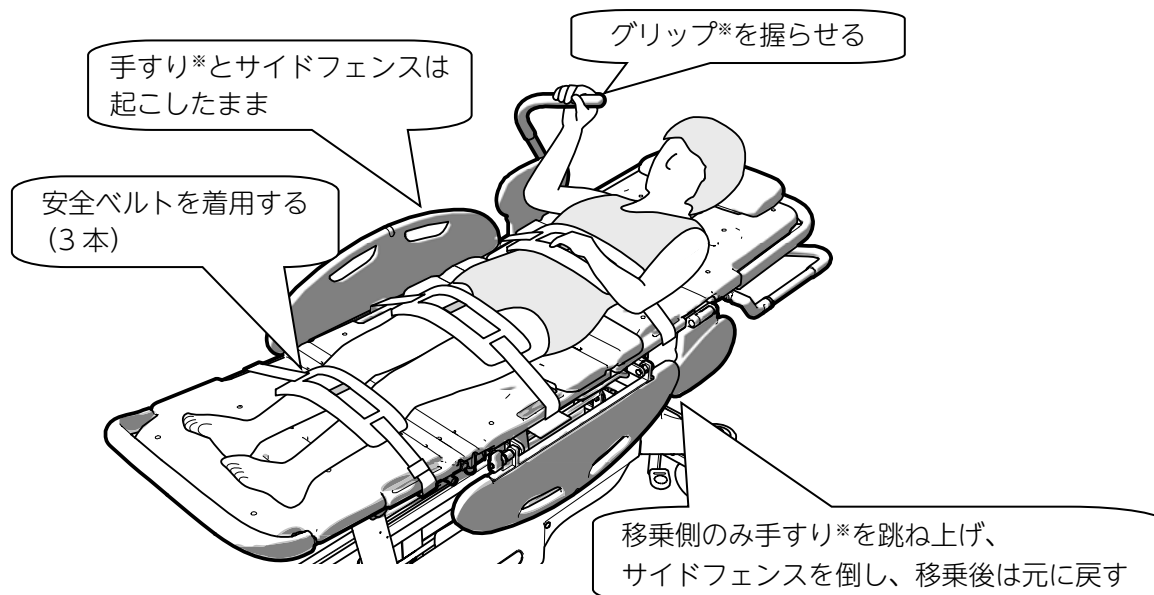
担架への移乗作業

1 背当てを倒した状態にします。

2 移乗する側の手すり※を跳ね上げ、サイドフェンスを倒します。
移乗と反対側の手すり※およびサイドフェンスは、起こしたままにして入浴者の転倒・落下に注意しながら作業をします。

参考
マット（腰部）はピンク色になっています。入浴者を移乗させる際は、
ピンク色のマットに入浴者の臀部がくるように移乗させてください。

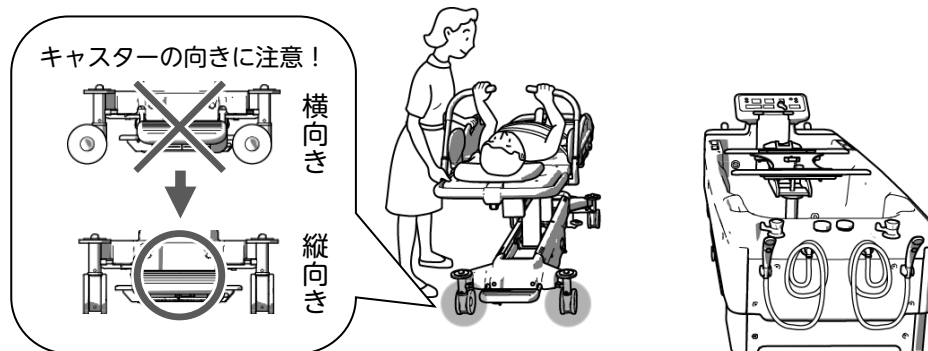
3 移乗後は、安全のため３本の安全ベルトを着用します。

4 サイドフェンス・手すり※を元に戻します。肘を手すり※の内側に入れます。

※手すり（オプション）を設置している場合

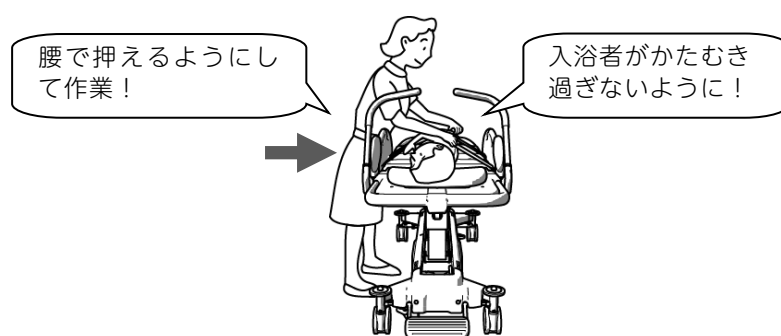
⚠注意　入浴者を担架に乗せたら、グリップ※を握らせ肘を内側に入れる

操作方法

洗髪・洗身作業

●担架を乗せたストレッチャーは、傾斜がきつい場所や、排水口の上は避けて停めてください。停める際には、必ずキャスターを縦向きにしてから、ロックしてください。

●担架上で体位変換を行う場合は、必ず介助の反対側のサイドフェンスを起こし、入浴者の落下等に注意しながら作業してください。

●安全ベルトを洗身作業等で外した場合は、入浴者から目を離さないでください。作業が終了したら、速やかに安全ベルトを着用してください。

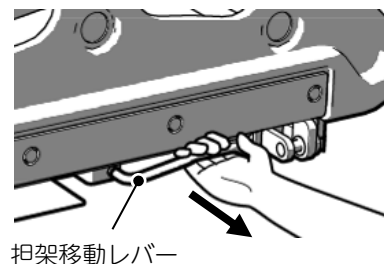
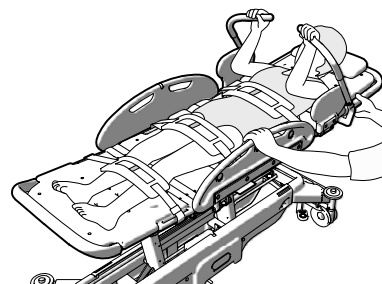
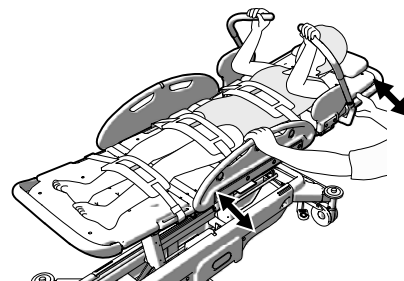
●洗身作業などで、入浴者を側臥位にする場合は、ストレッチャーの転倒を予防するために、担架やサイドフェンスを腰で押さえるようにして作業してください。

⚠警告　・担架上で入浴姿勢を変えるときは、手足の指の状態に注意
・担架上での移乗・洗髪・洗身作業時は、入浴者の落下に注意

操作方法

浴槽⇔ストレッチャー／洗浄台間の移動

担架を浴槽からストレッチャー／洗浄台、またはストレッチャー／洗浄台から浴槽へ移動させます。

1 **担架移動レバーを手前に引き、少し移動させたらレバーから指を離します。**

・片手でサイドフェンス、もう一方は背当てを持ちます。

2 **担架がロックされる位置まで移動します。**

3 **担架を押し引きし、確実にロックされていることを確認します。**

⚠警告
- **担架を移動させるときは、ストレッチャーが上限にあること（昇降式ストレッチャー）、浴槽の連結完了ランプが点灯していることを確認**
- **担架を少し移動させたら、必ず担架移動レバーから指を離す**

⚠注意
- **担架を移動させるときは、介助者の手指等の挟み込みに注意**
- **担架の移動は、ゆっくり行う**

参考

・担架をストレッチャー/洗浄台から浴槽へ移動後、浴槽からストレッチャー/洗浄台へ戻すときは、担架を送り出した側のみ、担架の移動ができます。安全のために通り抜ける移動はできません。（センタータイプ）

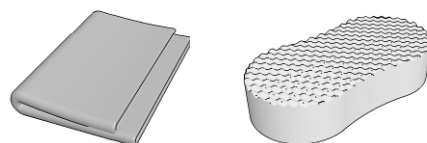
・連結・移動に関する詳細事項は、浴槽取扱説明書の「入出浴作業」をご覧ください。

日常のお手入れ

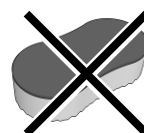
清掃

1 **マット、ベルトを取り外し、やわらかい布、またはやわらかいスポンジに浴室用洗剤を含ませ、汚れを落とします。**

・ローラー部に髪の毛などが詰まっている場合は、
フレームの端面などに注意して清掃してください。

推奨品：酒井医療㈱「浴槽クリーナ A」

お願い

・洗剤をかけたまま放置しないでください。
・強くこすらないでください。きずの原因になります。

⚠**注意**
・タワシやブラシは使わないこと
・研磨材がついたスポンジや、ネットに包まれたスポンジは使わないこと
・フレームの端面や凹凸に注意

2 **フレーム、マット、ベルトに付いている泡をシャワーで十分洗い流します。**

⚠**注意**　**高温のシャワーをマットにかけないこと**

お願い

・泡が残っているとカビが発生しやすくなります。
・お湯で洗い流した場合、最後は水で洗い流してください。

3 **乾いた布で水滴を軽く拭き、マットは、表面に水が残らないように立てかけて、日陰に干して乾燥させます。**

⚠**注意**　**マットは日陰に干すこと**

お願い　水滴を残すと水垢などが残り、くすみの原因となります。

バスクッションピロー（SWS-105）のお手入れ

洗うときは、クッションからカバーを外します。
カバーは洗濯用ネットに入れて洗濯します。
クッションはシャワーなどで水洗いをして、日陰に干します。

お願い　クッションを天日干しすると、素材が劣化します。

このようなときは

まずは、次の内容を確認していただき、なお異常があるときは最寄りの営業所までご連絡ください。

	このようなときは	ここを確認してください	参照ページ
サイドフェンス	サイドフェンス（頭側）が倒せない	●手すりが跳ね上げられていますか？※2 →手すりを跳ね上げてから、サイドフェンスを倒してください。	P.12
		●倒す際に、入浴者の足側にスライドさせていますか？ →入浴者の足側にスライドさせてから、サイドフェンスを倒してください。	P.12
	サイドフェンス（頭側）が起こせない	●手すりが跳ね上げられていますか？※2 →手すりを跳ね上げてから、サイドフェンスを起こしてください。	P.12
	サイドフェンス（足側）が倒せない	●ストッパーを引いていますか？ →ストッパーを引いてから、サイドフェンスを入浴者の足側にスライドさせ、手前に倒してください。	P.11
枕 ※1	枕の位置調節ができない	●枕ノブをゆるめましたか？ →枕ノブをゆるめてから、枕の位置を調節してください。	P.13
	枕が外せない	●枕ノブが完全に外れていますか？ →最後まで回してノブを取り外してから、枕を外してください。	P.13
手すり ※2	手すりが跳ね上がらない	●手すりのつけ根部を押していますか？ →手すりのつけ根部を押して、手すりを跳ね上げてください。	P.15
背当て	背当てを起こした位置で固定できない 背当てが倒せない	●背当てをいっぱいまで上げていますか？ →背当てをいっぱいまで上げてから、ゆっくり下ろしてください。	P.17

※1：スライド式枕タイプの場合
※2：手すり（オプション）を設置している場合

機器について

	このようなときは	ここを確認してください	参照ページ
マット	マットが外れてしまう	●マットピンが穴にしっかり差し込まれていますか？ →すべてのマットピンを完全に差し込んでください。	P.19
		●マットピンが損傷していませんか？ →損傷している場合は、最寄りの営業所までご連絡ください。	

・その他、ご不明な点につきましては最寄りの営業所までご相談ください。

・ご使用中万一故障が発生したら、ただちに入浴者を安全な場所に退避させた後、使用を中止して最寄りの営業所までご連絡ください。

機器について

保守・点検

・本製品を使用する際は､機器の管理者の方が P.7～8 の点検項目に基づき、必ず始業点検（日常点検）を実施してください。

・長期間使用しなかった製品を使用再開する場合は、機器が正常に動作するか十分な点検を行ってください。

・点検時に異常が発見された場合は、製品の使用を中止して最寄りの弊社営業所までご連絡ください。

・清掃等の簡単な保守は機器の管理者等によって実施するようお願いいたします。

● 定期保守点検契約のお勧め

製品を長期間正常な状態で安全に使用できるように保証期間後の「保守点検契約」の締結をお勧めします。詳しくは別添の「保守点検契約のお勧め」をご覧になるか、最寄りの弊社営業所へお問い合わせください。

保証とアフターサービス

保証書と保証期間

- 保証書(別添)は再発行いたしませんので紛失されないよう大切に保管してください。保証書がないと保証期間中でも有償修理とさせていただく場合があります。
- 保証期間は１年です。ただし本体フレームは５年間です。保証の規定につきましては保証書をご覧ください。

修理をご依頼いただく場合

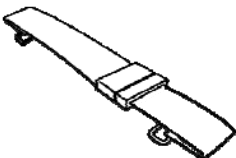
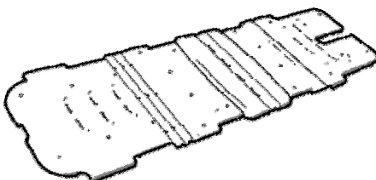
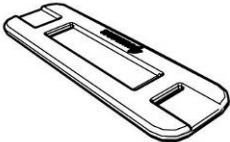
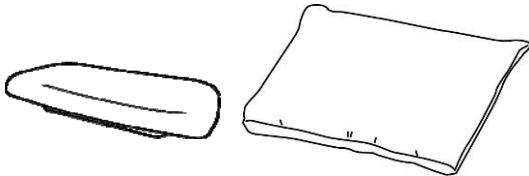
▪ 修理をご依頼いただく場合は、下記のことをお知らせください。

機種名　　：　*担架　SWS-100／105*
オプション：手すり　SWS-10

お買い上げ：　　年　月　日

故障状況(できるだけ詳細に)

住所、氏名、電話番号

▪ メーカーより指示のあるとき以外は、機器を分解しないでください。

機器について

耐用期間

10 年：保守点検などの弊社推奨環境で使用された場合

損耗品 （使用により、摩耗･劣化･変質等が生じ、本来の機能が発揮できなくなるもの）

正常な使用において、交換の目安が**約 2 年**のもの。

損耗品の交換時期が来ましたら弊社営業所までご用命ください。点検して必要により有償交換いたします。

保守用性能部品の保有期間

保守用性能部品の保有期間は、販売中止後 10 年です。ただし、性能部品が製造中止などにより入手不可能になった場合は、保有期間が短くなる場合もあります。

機器について

仕様

名　　称		担架	
型　　式		SWS-100	SWS-105
外形寸法		長さ 1904×幅 644×高さ 297 ㎜	
質　　量		約 47 kg	
最大使用者体重		100kg	
材　質	フレーム	ステンレス	
	担架面	プラスチック（PP）	
	サイドフェンス	プラスチック（PP）	
	マット	プラスチック（PE）	
	枕	プラスチック（PE）	ポリエーテルエステル系繊維
	パッド（ベルト用）	プラスチック（PE）	
機能構成		背当て角度（9°/50°） 安全ベルト、パッド：3本 マット サイドフェンス（頭側、足側） リクライニングローラー	
		スライド式枕	バスクッションピロー

オプション：手すり装着時

型　　式		SWS-100/105　＋　SWS-10
外形寸法		長さ 1904×幅 690×高さ 581mm
質　　量		約 52 kg
材　　質	手すり	ステンレス
	グリップ	プラスチック（PVC）

注．都合により予告なく仕様の変更を行う場合があります。